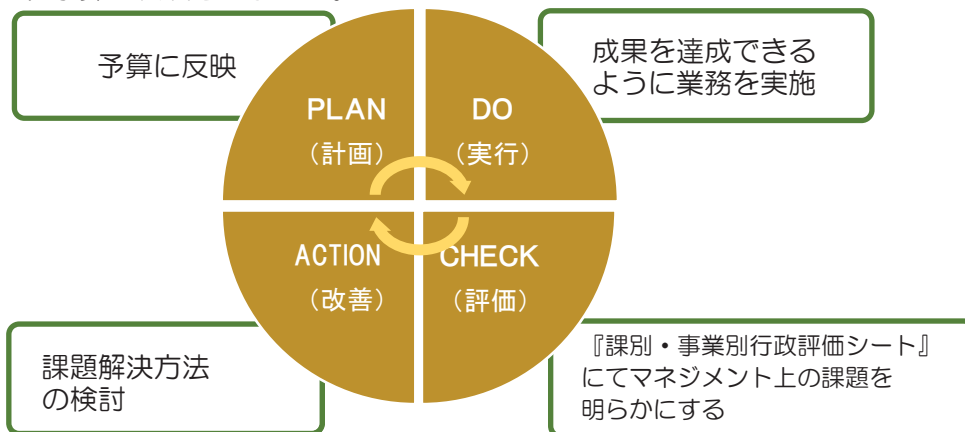


6 予算におけるその他の取り組み

(1)新公会計制度を活用した予算編成について

町田市は、2012年4月から市区町村としては全国で初めて、日常の会計処理の中で複式簿記を行う新公会計制度を導入しました。2016年8月に公表した『平成27年度（2015年度）町田市課別・事業別行政評価シート』では、事業の有効性・効率性の検証により、様々なマネジメント上の課題を明らかにしました。2017年度予算の編成にあたっては、明らかになった事業のマネジメント上の課題を解決できるように、予算に反映させました。



『平成27年度（2015年度）町田市課別・事業別行政評価シート』で明らかになった課題を、2017年度予算に反映させることができた件数・金額は以下のとおりです。

区分	予算に反映させた取組	件数	予算反映額
1	成果向上に向けた取組強化	68件	1,674,171千円
2	行政運営の見直し	28件	△277,746千円
3	歳入確保	10件	788,381千円

予算編成に反映させた具体的な取組みについて、3つの区分ごとに紹介します。

区分	担当課	2015年度末の事業の課題	成果指標	2015年度 成果	予算編成で 見直した項目	予算編成で 見直した内容	2016年度 予算額 (千円)	2017年度 予算額 (千円)	予算 反映額 (千円)
1	市民部 小山市民 センター	市民から要望のあったロビーの改善や和室の洋室化について検討し、改善をすることで施設利用率の向上を目指します。	施設 利用率	52.9%	消耗品費 施設修繕料	市民から要望が多かったロビーの照明をLED化します。また、ラックを設置し、チラシを見やすく整理します。和室には、和室用の椅子を購入し、高齢者や障がい者の方も快適にご利用いただけるようにし、施設利用率の向上を目指します。	0	620	620
2	子ども生活部 すみれ教室	季節及び曜日によって利用者数の偏りのあるプールの利用形態について、見直しを進めます。			プール監視業 務委託料	温水プールの開放日を、利用実態に合わせて見直します。平日は時期を問わず開放していましたが、夏季3か月間とします。	2,337	1,815	△ 522
3	市民部 防災安全課	地域住民の生命、身体、財産を守るための活動に必要な消防団員の装備品の購入が必要となっています。購入・更新に係る費用は避けられないため、限られた経費の範囲で計画的に装備品を調達し配備することが必要です。			市町村消防団 用防火衣整備 費補助金	都の補助金である市町村消防団用防火衣整備費補助金を活用することにより、消防団員の装備品を、着実に調達し配備します。	0	4,428	4,428

新公会計制度による行政サービスの見える化と、予算編成を含むPDCAサイクルの実施により、市民サービスの向上を図ります。

(2)インセンティブ予算付与状況

インセンティブ予算とは、各部の創意工夫による経費節減や財源確保の取り組みを評価し、3年間別枠で配分する予算で、2007年度予算から導入したものです。

2017年度予算からは、「ふるさと納税促進策各部提案制度」において、ふるさと納税の目的についての提案に加えて、ふるさと納税の増加につながる返礼品を提案する促進策に対しても、インセンティブ予算を付与することとしました。

2017年度予算は審査の結果2件の財源確保の取り組みと1件のふるさと納税促進策に対してインセンティブ予算を付与しました。上記の他に2015年度から引き続き各部に付与している1,937千円と合わせて、総額7,529千円のインセンティブ予算を付与しました。

■新たにインセンティブ予算を付与した取り組み

<財源確保の取り組み>

○市有財産の有効活用

未利用であった事業用地について事業開始までの間、民間に貸付を行います。

◎財源確保額 9,120 千円 ◆インセンティブ予算付与額 4,560 千円

<インセンティブ付与額の内訳>

《建設部》 2,760 千円

《都市づくり部》 1,800 千円

<ふるさと納税促進策>

○ふるさと納税返礼品の提案《経済観光部》

町田市へのふるさと納税の魅力をさらに高め、町田市の魅力を市外にも幅広くPRすることを目的にして、町田の技術が結集された日本初の水耕栽培により生産される「まちだシルクメロン」を返礼品として追加しました。

◎目標寄附金額 6,000 千円 ◆インセンティブ予算付与額 600 千円

■インセンティブ予算の付与状況

	インセンティブ付与額			計
	2015年度分	2016年度分	2017年度分	
文化スポーツ振興部		282	432	714
保健所	948	707		1,655
経済観光部			600	600
建設部			2,760	2,760
都市づくり部			1,800	1,800
計	948	989	5,592	7,529

単位:千円

■インセンティブ予算の主な充当事業

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ・トライアル発注商品認定事業推進委託料 | 300 千円 (経済観光部) |
| ・街路樹整備にかかる設計及び工事費 | 2,760 千円 (建設部) |
| ・鶴川駅南北自由通路整備設計委託料 | 1,800 千円 (都市づくり部) |

(3)まちだ未来づくり基金（ふるさと納税）の使い道

町田市ではふるさと納税の使い道について、町田市の基本計画である「まちだ未来づくりプラン」に基づいた下記①から④の使い道を指定することが可能です。これらの使い道を指定して頂戴したふるさと納税は、「まちだ未来づくり基金」に積み立てております。

- | |
|-----------------------------------------------|
| ①将来を担う人が育つまちをつくる（子ども・子育て・教育・生涯学習など） |
| ②安心して生活できるまちをつくる（高齢者・障がい者・健康・医療・防犯・防災・地域振興など） |
| ③賑わいのあるまちをつくる（産業振興・文化スポーツ振興・観光振興など） |
| ④暮らしやすいまちをつくる（交通・住環境・環境など） |

2017年度予算において、上記の使い道として積み立てたふるさと納税のうち、2015年度に積み立てたものについて、「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画である「町田市5ヵ年計画 17-21」の推進に資する下記の事業に活用いたします。

使い道	①将来を担う人が育つまちをつくる				
充当事業	教育の情報化推進事業	所管	学校教育部 教育センター	充当額	5,129千円
内容	2017年度に指定するICT推進モデル校における魅力ある授業の研究に必要なタブレット端末やプロジェクト等の購入に活用します。				

使い道	②安心して生活できるまちをつくる				
充当事業	介護人材開発事業	所管	いきいき生活部 いきいき総務課	充当額	2,520千円
内容	市内介護事業所の人材不足に対応するための介護人材の確保、育成及び就労継続などの事業に対する支援に活用します。				

使い道	③賑わいのあるまちをつくる				
充当事業	東京2020オリンピック・パラリンピック等国際大会推進事業	所管	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課	充当額	540千円
内容	東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした、スポーツ・文化・経済・観光等の振興とまちの魅力向上及び地域の活性化に寄与する事業に活用します。				

使い道	④暮らしやすいまちをつくる				
充当事業	地域コミュニティバス運行事業	所管	都市づくり部 交通事業推進課	充当額	1,415千円
内容	コミュニティバスの新規路線運行に向けた、道路の走行環境整備にかかる費用に活用します。				

また、ふるさと納税の使い道のうち、「トップスポーツを楽しめる環境を町田に！」を指定して頂戴したふるさと納税について、2016年度にまちだ未来づくり基金に積み立てるものを下記のとおり活用いたします。

使い道	トップスポーツを楽しめる環境を町田に！				
充当事業	野津田公園整備事業	所管	都市づくり部 公園緑地課	充当予定額	10,000千円
内容	市立陸上競技場で開催される大規模スポーツイベントにおいて、より迫力あるプレーを楽しむための新たな大型映像装置整備に活用します。				

(4)事務事業の見直し状況

2017年度の予算編成にあたっては、予算編成方針に基づき、「事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直し」「補助金等及び扶助費見直し」「総務事務及び庶務事務見直し」を行い、総額△108,568千円の見直しを行いました。

1 事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直し <見直し額 △10,764千円>

市の全ての事務事業を対象として実施根拠について調査を行い、法律・条例等に基づかない事務事業に関して、廃止・縮小も含めた見直しを行いました。

見直しを行った16件のうち、2016年度予算額から100万円以上見直したものは以下のとおりです。
(単位：千円)

項番	事務事業の名称	2017年度 予算額 A	2016年度 予算額 B	見直し額 A-B
①	住宅改修に関すること（住宅改良助成金）	6,000	10,000	△4,000
②	民有緑地保全事務	2,538	4,255	△1,717
③	里帰りトイレトーパー作製	0	1,386	△1,386

2 補助金等及び扶助費見直し <見直し額 △44,275千円 ※事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直しとの重複分除く>

2016年度予算編成において段階的に見直すものとした町田市単独事業の補助金等について、2017年度予算編成において引き続き見直しを行いました。

見直しを行った6件のうち、2016年度予算額から100万円以上見直したものは以下のとおりです。

※「事務事業見直し基礎調査結果に基づく見直し」と対象が重複しているものについては再掲しています。

(単位：千円)

項番	補助金等名称	2017年度 予算額 A	2016年度 予算額 B	見直し額 A-B
①	保育所運営費加算補助金	469,206	510,481	△41,275
②	住宅改良助成金（再掲）	6,000	10,000	△4,000
③	職員互助会交付金	17,000	20,000	△3,000

3 総務事務及び庶務事務見直し <見直し額 △53,529千円>

市役所組織を運営するために各部・各課で実施している内部管理事務の必要性や作業工程を重点的に点検し、職員一人ひとりの創意工夫や提案によって事務を合理化・効率化することで、市役所の生産性の向上に取り組みました。

見直しによる事務の合理化・効率化の効果として2017年度予算に反映した金額は以下のとおりです。

■2017年度予算への反映額

時間外勤務手当 △53,529千円（△18,567時間相当）

参考資料

当初予算案ができるまで

市は、新しい年度が始まる前にこの先 1 年間に行う事業を検討し、収入と支出の見積りをします。これが「当初予算」といわれるもので、市民の代表である議会の議決を経て成立し、新しい年度が始まるとこの予算をもとに事業が行われます。

「当初予算」の予算編成は以下のような流れで行われ、議会に予算案として提出されます。

※時期は、2017 年度予算編成をもとにしています

